

地域通貨“ブラン”を使った「うもれぎマーケット」を年1回開催するなど、ユニークで先駆的な取り組みが光る。また、集落には、複数の農家民宿が存在し、域外交流も盛んに行われている。15軒の集落であるが、何かを作り上げる力やアイデアは豊富で、ワークショップにも多数の住民が集まってくれました。子供から高齢者までみんな家族のように思える集落である。



**□高齢になっても花見のできる地域を創っていこう！**

**自分の身の回りのことだけで精一杯。正直、老後の暮らしに関する不安がある。**

⇒桜の木の下でやる花見でなくとも、花瓶の桜と一緒に眺めることができる関係づくりを目指したい。  
・老人クラブやゆうゆうクラブの活動を通じ、地元高齢者同士の楽しみの時間をたくさん作る。

**□元気な歌声をあの学び舎やから！**

**中津川地区から学校が無くなったことが少し寂しい。若者の元気な姿を取り戻したい。**

⇒空き校舎の利活用は、地区全体で抱える大きな課題。地域の人達のニーズを町に届けていこう。

**□一歩前へ。一人ひとりの声を活かした地域づくりを！**

**地域づくりを進めるリーダーの成り手がいない。地元出身者を呼び戻したい。**

⇒域外交流も良いが、地元の子供達を大切に育てていこう。(アウトメディア、遊び方・学び方を教える)  
・子供たちに農村の魅力を伝え、中津川の魅力を外部の方に積極的に発信する。  
・1人の指導者より10人のリーダーを目指す。(人数が減っても夢のある集団に変わりはない)

**□VS雪！除雪機があっても人手が足りない！**

**高齢者世帯では冬の暮らしが深刻。助け合い除雪にも限界が見え始めている。**

⇒冬季限定の共同生活住宅があったら良い。同じ悩みを持つ集落や地域の取り組み事例を集めてみる。